

主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育む学習指導
～「CAN-DO リスト」(試案)を活用した単元構成と Small Talk の工夫を通して～

南風原町立津嘉山小学校教諭 神里 岳彦

I テーマ設定の理由

平成29年度告示小学校学習指導要領外国語(以下「新学習指導要領」と表す)には、外国語科の目標は「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次の通り育成することを目指す。」と示されている。そのために、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」それぞれに関わる外国語特有の資質・能力を育成することが必要とされている。

これまでの外国語活動での授業実践を振り返ると、児童が英語に慣れ親しみ、体験的に楽しく英語でコミュニケーションに取り組めるよう、ゲームやチャンツ、学んだ表現を使って友達と交流をするなどの活動を工夫して行ってきた。しかし、単元終末における実際のコミュニケーションに近いやり取りや発表などの活動では、なかなか話せない児童や活動に意欲的でない児童の姿が見られた。その要因として、児童にとって英語表現を使う目的が明確でなかったことや、教師がモデルで示したことを繰り返すだけでなく、自分の伝えたい内容を話したり聞いたりする、主体的な言語活動が不十分であったことが考えられる。

児童が主体的に英語でコミュニケーションを図れるようにするには、教師が単元終末段階の児童に望む具体的な姿をイメージし、必要な資質・能力を育むための目標設定や毎時間の活動の配列を工夫し、コミュニケーションを楽しみながら学習した表現を活用できる言語活動を取り入れる必要があると考える。

そこで本研究では、単元構成の際に「CAN-DO リスト」(試案)を作成し、児童が小学校卒業時に身に付けてほしい具体的な資質・能力から逆算して、単元における到達目標や毎時間の目標を定め、必要な言語活動を配列していく。その際、「話すこと [発表]」を単元終末の言語活動に位置づけ、発表に必要な表現を言語活動を通して繰り返し活用できるように、高学年新教材で設定されている Small Talk を児童の実態に合わせて行う。そうすることで、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

英語学習において、「CAN-DO リスト」(試案)を活用した単元構成と、Small Talk の工夫を行うことで、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができるであろう。

2 検証計画

事前に行う外国語の授業に関するアンケート調査や振り返りカードの記述内容等から、児童の実態調査・分析・把握を行う。検証授業は、6年4組の学級で8時間行う。検証授業では、児童の発表、ペアやグループ活動の様子、ふりかえりシートの記述等により児童が英語で主体的にコミュニケーションを行うことができたかどうかを考察する。単元終了後にアンケートを実施し、事前調査との比較・分析を行い本研究の仮説を検証していく。

検証授業の対象：津嘉山小学校 6年4組 [男子19名 女子14名 計33名]		主な検証方法
1 事前調査	○英語の授業に関する事前アンケート（12月）	・事前アンケートの分析
2 検証授業 Unit7 「My Best Memory」 8時間	日程	検証の観点 ・「CAN-DO リスト」（試案）をもとに、児童が主体的に取り組める単元のゴールを示し、それに向けた単元構成となっていたか。 ・児童の振り返りをふまえた Small Talk の工夫ができていたか。
	・第1時（1／8） ・第2時（1／9） ・第3時（1／10） ・第4時（1／16） ・第5時（1／17） ・第6時（1／18） ・第7時（1／23） 検証授業 ・第8時（1／28）	
3 事後調査	○事後アンケート（1月）	・事後アンケートの分析 ・振り返りカードの分析 ・授業記録、児童の感想等の分析
4 まとめ	○「CAN-DO リスト」（試案）を活用した単元構成と、Small Talk の工夫は児童が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことに効果的であったか。	・事前・事後のアンケートの比較・分析 ・結果のまとめ・考察

Ⅲ 研究内容

1 主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育む学習指導とは

(1) 主体的に外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度

「主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」を身に付けることは外国語科の目標の(3)「学びに向かう力、人間性等」に関わる資質・能力の中に示されている。「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度」とは、解説外国語編で「単に授業等において積極的に外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度のみならず、学校教育外においても、生涯にわたって継続して外国語習得に取り組もうとするといった態度を養うことを目標としている」と述べられている。また、小学校での外国語教育における主体的な学びについて直山（2017）は、「やってみたいという気持ちを持って活動に取り組んだり、楽しみながら活動をしたり、自分の気持ちや考えを伝えあったりしたいという思いを持って活動をしているとき、次には自分の思いをもっと伝えられるようになりたいと工夫しているとき、主体的に学んでいるといえる。」と述べている。

本研究では、児童の実態をふまえ、直山が述べている「主体的な学び」を実現することが必要であると考え、児童が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことを目指した学習指導の工夫に取り組む。

(2) 外国語科に求められている指導

平成29年度告示小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（以下「解説外国語編」と表す）には、外国語特有の資質・能力を育成する際、「外国語教育の特質に応じて、児童が物事を捉え、思考する『外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方』を働かせることが重要である。」と述べられている。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」（解説外国語編）とされている。

また、外国語科の目標に「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して」資質・能力を育むことが示されている。解説外国語編には、「言語活動を行う際は、単に繰り返し活動を行うのではなく、児童が言語活動の目的や言語の使用場面を意識して行うことができるよう、具体的な課題等を設定し、その目的を達成するために、必要な言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。このような言語活動を通じて、児童の『学びに向かう力、人間性等』を育成することが重要である。」と述べられている。

これらのことから、児童が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むためには、児童が「外国語による見方・考え方」を働かせられるように、単元構成を工夫し、「言語活動」を通して新しい表現や既習事項を活用する学習指導の工夫が求められていると考える。

(3) 外国語科における単元構成上の留意点

小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（以下「ガイドブック」と表す）には、外国語活動の単元構成の留意点として「ゴールの明確化と段階的な目標設定」について述べられている。ガイドブックでは、「ゴールを明確にすることで、指導者自身が、終末で目指す児童の具体的な姿、つまり単元を通して児童に身に付けさせた力をイメージすることができ、目標の実現に向けての必要な手立ても見えてくる。ゴールが決まれば、そこから逆算して（バックワード・デザイン）1時間ごとの目標を定め、活動を組み立てながら単元を構成していく。」と述べられている。ゴールと毎時間の目標が決まった後、各目標に添って具体的な活動を選択し、時間配分や評価場面も考慮しながら配列を考える作業を通して、単元を構成することになる。

さらに、外国語科の単元計画を立案する際、「単元を通じて繰り返し取り組ませる活動を位置づける」ことがガイドブックで述べられている。繰り返し取り組ませる活動として表1に示す3つの活動がある。

ゴールから逆算して単元構成を考えることは外国語活動に限らず、外国語科において必要な視点であると考えられる。本研究ではゴールの明確化のために「CAN-DO リスト」（試案）を作成し、児童の卒業時に目指す姿から逆算して、目標に沿った活動を配列するように単元構成を考えていく。また、表1に示す活動は、つけたい力を身に付けるためにはいずれも大切であるが、今年度から外国語科の内容を学習する児童の実態を踏まえ、本研究では Small Talk を毎時間行うことで、児童が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育む手だてとして扱う。図1に本研究の全体像を示す。

表1 単元を通じて繰り返し取り組ませる活動

○Small Talk 好きな食べ物やスポーツ、その理由、行事や長期休暇の思い出など、児童が興味・関心のある身近な話題について、自分自身の考えや気持ちを楽しみながら伝え合う活動。
○Sounds and Letters 文字の音と、その音で始まったり終わったりする単語に慣れ親しむ活動。
○Let's Read and Write これまでで聞いたたり言ったりして音声で十分に慣れ親しんだ表現を読んで、書き写す活動。また、例から言葉を選んで書き写し、自分の思いを表現したり、友だちが書いたものを読んだりする活動。



図1 研究の全体像

2 「CAN-DO リスト」（試案）を活用した単元構成と Small Talk について

(1) 「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定

「CAN-DO リスト」とは、学習の到達度を表す指標のことで、中・高等学校の卒業時および各学年終了時に、英語を使って何ができるかを技能別に記述したものである。4技能について「～することができる」という具体的な文（能力記述文）によって表される。

また、「CAN-DO リスト」は児童にとっても振り返りの際に活用できる。藤田（2017）は、「毎回の授業の終わりに学習活動を振り返り、何がどこまでできたかを確認し、授業中に得られた気づきを記述することによって学びの過程に主体的にかかわることを促すことができる。」と述べており、「CAN-DO」リストをもとに振り返りシートを作成し児童に提示することで、効果的な指導につなげていきたい。

本研究では「CAN-DO リスト」(試案)(表2)を作成し、それをもとに単元の目標を定め、そこから逆算して毎時間の目標と、それを達成するための必要な活動を配列する。毎時間の目標はふりかえりシート(資料1)に記載し、何がどこまでできればよいのかが児童にもわかりやすいように提示することで、児童の主体的な学びにつなげていく。

表2 津嘉山小学校第6学年「CAN-DO リスト」(試案)

卒業時に目指す児童像	基本的な表現を用いて、自己紹介したり、身近で簡単な事柄について英語で話したりすることができる。
聞くこと	身近な話題についての英語を聞いて内容を理解することができる。
話すこと [やりとり]	身近な事に関する質問に答えることができる。
話すこと [発表]	簡単な表現を使って自己紹介したり、身近な事柄について英語で言ったりすることができる。
読むこと	・単語を見て発音することに興味を持つことができる。 ・アルファベットの名前、音に興味を持つことができる。
書くこと	・単語や簡単な英文を書き写すことに興味を持つことができる。

My Best Memory ふり返しシート

6年 組 番 NAME

Lesson's Goal		6年生の思い出のアルバムを作って発表しよう。			
① Today's Goal	6年生の思い出を英語で話すことができる。				
日付					感想 (良かったこと、できるようになったこと、楽しかったことなど)
	進んで学習に取り組むことができる。	あまりできなかった。	できた。	よかったです。	
	学校行事を英語で言うことができる。	自信のないものがあった。	単語を見れば6つは全て言えた。	単語を見なくても6つ全て言えた。	
	6年生の思い出を英語で話すことができる。	あまりできなかった。	できた。	感想も加えて話すことができました。	
② Today's Goal	6年生の学校行事で行った場所について英語で話すことができる。				
日付					感想 (良かったこと、できるようになったこと、楽しかったことなど)

資料1 ふり返しシート

(3) Small Talk の意義と工夫

Small Talk とは、高学年新教材で設定されている活動である。2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすることである。Small talk を行う目的について、「(1)既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること」、「(2)対話の続け方を指導すること」がガイドブックに挙げられている。

(1)については、「これまでの外国語活動においては、児童が単元の新出言語材料に慣れ親しむことに重点が置かれていた一方で、複数単元を通じた系統性が弱く、言語材料の使用が単元ごとで完結している場合が少なくなかった。新学習指導要領に基づく外国語科の指導においては、言語材料の定着にも重点が置かれている。」と述べられ、児童が、前の単元で学習した言語材料を繰り返し使用できる機会を保障し、言語材料の定着を目指すことが求められている。

(2)は、「対話を続けるために、相手の話した言葉を繰り返して話し手が伝えたい内容を確認めたり、相手の話したことに何らかの反応を示したりする」表現の定着を図ることが述べられている。

指導の方法として、まず、指導者と児童が表現内容の授受を楽しみながら行い、話題を導入する。次に、児童同士で対話を行う。1回目の対話の後で、教師は児童が伝えたくても英語で表現できなかったことはないかを確認する。その際、児童が前時までに学習した言語材料で表現できる内容について質問した場合、指導者はすぐに答えるのではなく、学級全体に問いかけ、質問者以外の児童にも既習表現を想起させる。そして2回目の対話を行う。未習の言語材料については、平易なも

表3 Small Talk の案 (第2時)

T:担任 J:JTE <対話を続けるための工夫>	
T: Hi. What's your best memory?	
J: My best memory is sports day. I like eisa. It was exciting.	
T: Oh, really. That's good. <一言感想>	
J: How about you?	既習の表現
T: My best memory is field trip.	
J: Field trip. <繰り返し>	
T: I went to Koganemori park. It was fun.	前時で学習した表現
J: That's nice. <一言感想>	
(教師と数名の児童とでやり取りをする)	
T: OK, It's your turn. Let's talk about your best memory in pairs. 3, 2, 1 action.	本時で学習する表現の導入
(児童同士で Small Talk を行う)	
T: Do you have any questions?	
(児童の質問や対話を続けるための表現がいたかなどについて全員で確認し、別のペアでもう一度行う。)	

のは指導者が教え、難易度の高いものは日本語を用いる。

以上のことをふまえ、本研究の検証授業で扱う教材 (We Can! 2 Unit 7 My Best Memory) で取り組む Small Talk の案 (第2時) を表3に示す。検証授業を行う本校第6学年の児童はこのような形での Small Talk を行うのが初めてであるため、教師と JTE の対話を導入で行い、必要な表現を聞き取らせる時間を設けている。また、指導案に示した内容は、毎時間の児童の様子を行動観察やふりかえりシートで見取り、実態に合わせて柔軟に変更し、児童が負担感を感じることなく、楽しくコミュニケーションを行うことができるように工夫する。

IV 検証授業

1 単元名 Unit7 My Best Memory

2 単元の目標

- 小学校生活の中で、行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などを聞いたり言ったりすることができる。(知識及び技能)
- 小学校生活の中で、行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などについて伝え合う。また、小学校生活の思い出について簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、例を参考に語順を意識しながら書いたりする。(思考力、判断力、表現力等)
- 相手に伝わるように工夫しながら、小学校生活の思い出について伝えようとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、過去の表現が分かり、小学校生活やそこで楽しんだこと、感想などについて伝えあったりすること、それらについて話したことを書こうとしたりすることを目標としている。前単元「He is famous. She is great.」で、本学級の児童は〈主語＋述語＋目的語〉の文の語順について理解し、絵カードを並べて文を作る活動を行った。文の構造について理解ができていたため、過去を表す表現では述語に当たる動詞が変化することを、前単元の学習を活かして児童に気づかせることができると考える。また、本校の6年生は、三学期に入ると卒業文集づくりを始める。小学校の卒業を前に今までの学校生活を振り返る際には過去形が必要になるとともに、小学校生活の思い出を題材とすることは、児童にとって聞いたり話したりする必然性がある。そこで、学校行事で行った「日常生活に関する身近で簡単な事柄」について聞いたり話したりすることは、児童が主体的に英語でコミュニケーションを図るのに、よい機会であると考えられる。

(2) 児童観

12月に実施した事前アンケートでは、「英語の授業が好きですか」「英語の授業は楽しいですか」という質問に、本学級の90%の児童が「あてはまる・ややあてはまる」と答えている。また、「授業で習った英語をもっと話したり、聞いたりできるようになりたいですか」、「授業で習った英語を読んだり、書いたりできるようになりたいですか」という質問についても「あてはまる・ややあてはまる」と答えた児童が90%を超え、多くの児童が意欲的に授業に取り組んでいることがわかる。これまでの外国語活動での授業実践を振り返ってみても、英語を使ったゲームや単元導入におけるコミュニケーション活動では、楽しく活動に取り組む児童の姿が見られた。

しかし、単元終末における、実際のコミュニケーションに近い活動では、主体的にコミュニケーションをとろうとすることができない児童や活動に意欲的でない児童の姿が見られた。アンケートでも、「英語の授業で習った英語を話したり、聞き取ったりすることができますか」という質問には51%の児童が「あまりあてはまらない・あてはまらない」と答えている。さらに、「英語の授業で、めあてを理解して取り組んでいますか」という質問では、22%の児童が「あまりあ

てはまらない」と答えた。これらの結果から、児童にとって一時間一時間の目標や、単元終了時に到達する目標が明確でなかったことや、必要な表現を身につけるための言語活動の工夫が足りなかったことが考えられる。

このことを踏まえ、単元終了時に児童が学校生活の思い出について発表できるようにするというゴールを明確にし、毎時間の振り返りと Small Talk での既習表現の活用による指導と評価の一体化を通して、児童が主体的にコミュニケーションを図る態度を育てていきたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、第1時に教師が自作のアルバムを用いて小学校時代の思い出を発表するモデルを示すことで、児童に単元終末に行う活動のイメージを持たせ、ゴールを明確にする。その活動をするために、毎時間の授業で児童に身に付けてほしい表現の到達目標を振り返りシートに示し、毎時間その目標を確認しながら学習活動に取り組ませる。教師は振り返りシートや活動観察で児童の学習状況を見取り、習熟に課題のある表現を次時の Small Talk に取り入れて、児童同士の交流で活用できるようにする。Small Talk や英語を使ってのアクティビティ、児童同士のやり取りをする活動などを通して、発表に必要な表現に慣れ親しませることで、第7時にはメモを見ずに思い出の発表に挑戦させ、児童が自分の力で英語を話すことができたという自信につなげたい。第8時では、これまで十分に聞いたり話したりする活動で慣れ親しんだ表現を例文を参考にしながら3文程度で書く活動を行う。第7時まで、十分に聞いたり話したりして慣れ親しんだ表現を書くことは、児童も抵抗なく取り組めるうえ、学習の定着を図ることができると考える。

これまで、児童の意欲の低下が見られた単元終末の活動を、やってみたいと思えるものにし、第1時からその活動を児童に意識させながら、段階的な活動で表現が身につくように単元構成を工夫することにより、児童が主体的にコミュニケーションを図ることができるようにする。

4 該当する新学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができるようにする。
話すこと (発表)	イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。
書くこと	ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

5 単元の評価規準

- ・ゆっくりはっきりと話されれば、6年生の小学校生活の思い出について、行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などを聞き取ることができる。(聞くこと)
- ・6年生の小学校生活の思い出について、伝えようとする内容を整理したうえで、行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などを表す表現を用いて話すことができる。(話すこと[発表])
- ・6年生の小学校生活の思い出について、例文を参考に、行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などを表す表現を書き写すことができる。

6 指導と評価の計画 (全8時間)

時	○目標 学習活動 (T:担任、J:JTE、S:児童)	Small Talk の内容 □評価基準 (評価方法)
1	<p>○6年生の学校生活の思い出について言ったり、聞いたりできる。</p> <p>1 Greeting & Small Talk を行う。</p> <p>2 Lesson's Goal と Today's Goal を確認する。 ・教師の小学校生活の思い出を聞き、単元の目標と本時の目標を確認する。 Lesson's Goal 「6年生の思い出のアルバムを作って発表しよう。」 Today's Goal 「6年生の思い出とその感想を英語で話すことができる。」</p> <p>3 学校行事の英語での言い方を確認する。</p>	<p>過去の表現の導入として教師の冬休みの思い出について話し、児童とやり取りを行う。</p> <p>話す</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・単元で用いる6つの行事について、児童に英語での言い方を尋ねながら確認する。 4 6年生の思い出を伝え合う（サイコロトーク） ・グループで、一人がサイコロを振り、その目と同じ番号の行事をワークシートで確認する。他のメンバーがWhat's your best memory?と質問したら、My best memory is ○○.と答える。サイコロを振る児童をかえて、何度か繰り返したら、It was fun.やIt was exciting.などの感想も加えて、同様にサイコロトークを行う。 5 グループで6年生の思い出や感想を伝え合う。 6 ふり返りシートを記入し、感想を発表する。 	<p>6年生の学校生活の思い出について言ったり聞いたりしている。 <行動観察・振り返りカード点検></p>
2	<p>○過去の表現の仕方が分かり、6年生の学校生活で行った場所や感想を言ったり聞いたりできる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Greeting & Small Talkを行う。 2 Today's Goalを確認する。 Today's Goal「行った場所について英語で言うことができる。」 3 「～へ行った」の言い方を知る。 ・前時の教師の発表をもう一度聞き、「～へ行った」という過去形の表現を確認する。 4 6年生で行った場所の英語での言い方を確認する。 ・6年生の学校行事で行った場所の言い方を確認する。次に、それぞれの場所の英単語が書かれたカードを児童に配布し、教師がI went to○○というのを聞き、順番に並べる。児童が慣れてきたら、教師は言う速さを速くし、集中して聞き取らせる。最後に、各グループで教師役と児童役に別れて同様の活動を行う。 5 ペアで思い出、行った場所、感想について伝えあう。 6 ふり返りシートを記入し、感想を発表する。 	<p>①教師のモデルを聞く。 その際"I went to"を導入する。 ②児童同士で小学校6年生の思い出について尋ねたり、感想とともに答えたりする。</p> <p>話す 6年生の学校生活の中で、行った場所とその感想を言ったり聞いたりしている。<行動観察・振り返りカード点検></p>
3	<p>○6年生の学校生活の中で、行った場所と食べたものや見たもの、感想の言い方を聞いたり言ったりできる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Greeting & Small Talkを行う。 2 Today's Goalを確認する。 Today's Goal「見た物や食べたものについて英語で言うことができる。」 3 「～を見た、～を食べた」の言い方を知る。 ・教師の思い出についての話を聞き、「～を見た、～を食べた」という過去の表現を確認する。 4 見た物や食べたものの表現を確認する。(ミッシング・ゲーム) ・見たものや食べたものの英語での言い方を確認した後、児童に目を閉じさせ、1、2枚カードを隠す。児童は目を開け、なくなったカードを英語で答える。 5 マッチングゲームをし、『○○を見た・○○を食べた』の表現に慣れ親しむ。 ・3名グループで、Aが行事、Bが食べたものや見たもの、Cが感想を表す形容詞のカードを持つ。Aが好きな行事を選んで発話した後、BとCはそれに合う単語を選び、続けて発話する。 例) A:My best memory is sports day. B:I saw relay. C:It was exciting. 6 ペアで思い出、行った場所、見たもの、食べたもの、感想について伝えあう。 7 ふり返りシートを記入し、感想を発表する。 	<p>①教師のモデルを聞く。 その際"I saw/ate"を導入する。 ②児童同士で第2時の内容に加えて行った場所についても加えて会話をします。</p> <p>話す 6年生の学校生活の中で行った場所と食べた物、その感想を言ったり聞いたりしている。<行動観察・振り返りカード点検></p>
4	<p>○6年生の学校生活の中で、楽しんだこととその感想を聞いたり言ったりできる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Greeting & Small Talkを行う。 2 Today's Goalを確認する。 Today's Goal「6年生の学校行事で楽しんだことについて英語で話すことができる。」 3 教科書の音声教材を聞き、「～して楽しんだこと」の言い方を知る。 ・Let's Listen2で、"enjoyed ~ing"の表現を聞き取り、内容を考える。 4 動作を表す表現を確認する。(フェイント・リピート・ゲーム) ・学校行事で楽しんだの言い方を、絵カードを見ながら教師の発音に続いて確認する。次に、教師は指をさした絵カードと違う発音をする。児童はそれに惑わされず、教師の指差したものを発音する。 5 楽しんだことの表現をつかかって、6年生の学校行事の思い出を友達と伝えあう。 ・児童は一人一枚、動作を表す単語の書かれたカードを持つ。その単語を使って、思い出をペアで伝えあう。お互いに思い出を伝えたら、持っているカードを交換し、別のペアと思い出を伝えあう。慣れてきたら、行った場所や見たもの、食べたものの表現も段階的に加えて思い出を伝えあう。 6 ふり返りシートを記入し、感想を発表する。 	<p>①教師のモデルを聞く。 その際"I enjoyed"を導入する。 ②児童同士で第3時の内容に加えて見たものや食べたものについても加えて会話をします。</p> <p>話す 6年生の学校生活で楽しんだこととその感想を聞いたり言ったりしている。<行動観察・振り返りカード点検></p>

5	<p>○グループで発表する6年生の学校生活の思い出について、行った場所、楽しんだこと、食べたものや、感想がわかる。</p> <p>1 Greeting & Small Talkを行う。</p> <p>2 Today's Goalを確認する。 Today's Goal「6年生の思い出をグループで発表しよう①（発表する内容を考える）」</p> <p>3 教科書の音声教材を聞き、グループで発表する際に参考になる表現を確認する。 ・Let's watch and Think 3 (p55) でフランスの小学生の思い出を聞き、We, Ourの使い方を確認する。</p> <p>4 グループで発表の準備を行う。 ・各グループに各行事に関する写真やイラストの入った封筒を配る。グループで発表したい行事を選び、発表に必要な表現や役割を考える。各自、発表に用いる提示資料を作る。</p> <p>6 ふり返しシートを記入し、感想を発表する。</p>	<p>①教師のモデルを聞く。 ②児童同士で第4時までの内容について、既習の表現も交えながら会話を する。</p> <p>話す 6年生の学校生活の思い出について、グループで発表内容を考え、ワークシートに整理している。〈行動観察・ワークシート・振り返りカード点検〉</p>
6	<p>○6年生の学校生活の思い出について、聞き手に伝わるように、グループで発表の練習をすることができる。</p> <p>1 Greeting & Small Talkを行う。</p> <p>2 Today's Goalを確認する。 Today's Goal「6年生の思い出をグループで発表しよう②（わかりやすく伝わるように発表の仕方を工夫する）」</p> <p>3 個人で発表練習を行う。 ・前時に考えた発表内容を英語で言う練習をする。</p> <p>4 グループで発表練習を行う。 ・教師とJTEで発表の良い例と悪い例を示し、児童に工夫点を気づかせる。 ・グループで発表練習を行い、相手に伝わる話し方や資料の提示の仕方を工夫する。</p> <p>5 ふり返しシートを記入し、感想を発表する。</p>	<p>①教師のモデルを聞く。 ②児童同士で第4時までの内容について、既習の表現も交えながら会話を する。</p> <p>聞く 6年生の学校生活の思い出について、その感想も含めて、グループで伝えあっている。〈行動観察・振り返りシート点検〉</p>
7 本 時	<p>○6年生の学校生活の思い出について、グループで発表をしたり、感想を言ったりすることができる。</p> <p>1 Greeting & Small Talkをする。</p> <p>2 Today's Goalを確認する。 Today's Goal「6年生の思い出をグループで発表しよう③（全体発表）」</p> <p>3 グループ練習を行う。 ・各グループで前時に考えた発表の仕方を確認しながら練習する</p> <p>4 グループごとにOur Best Memoryを発表する。 ・各グループの発表がおわるごとに、数名の児童に感想を発表する。</p> <p>5 ふり返しシートを記入し、感想を発表する。</p>	<p>(本時の展開参照)</p> <p>話す 6年生の学校生活の思い出について、発表している。また、発表を聞いて感想を言っている。〈行動観察・振り返りシート点検〉</p>
8	<p>○6年生の学校生活の思い出について、例文を参考に書くことができる。</p> <p>1 Greeting & Small Talkをする。</p> <p>2 Today's Goalを確認する。 Today's Goal「6年生の思い出を書いてみよう」</p> <p>3 ワークシートに各自の6年生の思い出を書く。 ・①思い出、②行った場所、見たもの、食べたもののいずれか、③感想の三文以上を例文を参考にして書く。</p> <p>4 友だちの書いた思い出を読む。 ・数名の児童のワークシートを電子黒板に写し、全員で音読する。その後、誰の思い出か予想する。</p> <p>6 ふり返しシートを記入し、感想を発表する。</p>	<p>①教師のモデルを聞く。 ②児童同士で第4時までの内容について、既習の表現も交えながら会話を する。</p> <p>書く 6年生の学校生活の思い出について、例文を参考にしながら書いている。〈行動観察・記述分析・振り返りカード点検〉</p>

7 本時の展開（第7時）

	児童の活動	指導上の留意点 T :担任 J :JTE	検証の視点・評価
導入 10 分	<p>1 Greeting & Small Talk</p> <p>T: What is your best memory in Tsukazan elementary school?</p> <p>J: My best memory is music festival. I saw 6th grade's music performance, Dancing and singing. It was great. I ate bento with other teachers. It was delicious. I enjoyed listening songs. It was fun.</p> <p>T: I saw their performance, too. That's very nice.</p> <p>J: How about you?</p> <p>T: My best memory is my farewell party in September 28th. A student told me, "岳彦先生、職員室に行ってください。" So, I went to the teachers' room. Later, the student came and said, "岳彦先生、教室に来て下さい。" So, I went back to the class. I saw</p>		<p>[視点1] 教師のSmall Talkは前時の振り返りと、児童のコミュニケーションへの意欲を高めるために有効であったか。</p>

	<p>the smiling students jump up and shout. The party started, they gave me speeches and letters. It was so fantastic.</p> <p>J: Oh, very nice.</p> <p>T: Thank you. Now, let's talk about your best memory with pairs. Start!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で6年生の学校行事の思い出を伝えあう。 ・問い返しや、繰り返し、一言感想等が言えたかについて全員で確認し、別のペアでもう一度行う。 		
展開 28分	<p>2 本時のめあてを確認する。</p> <p>6年生の思い出をグループで発表しよう</p> <p>③ (全体発表)</p> <p>3 グループ練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のモデルを見て、発表する際のポイントを確認する。 ・グループごとに発表の練習を行う。 <p>4 グループごとに Our best memory を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の聞き手のモデルを見て、発表を聞く際のポイントを確認する。 ・グループごとに発表を行う。 <p>(発表例)</p> <p>全員: Our best memory is the school trip.</p> <p>S1: I went to the つつじエコパーク. I enjoyed game in the bus. It was fun.</p> <p>S2: I enjoyed banana boat. It was fun.</p> <p>S3: I enjoyed cooking. I ate beef and vegetable. It was delicious.</p> <p>S4: I enjoyed singing and dancing. It was exciting.</p> <p>S5: I enjoyed PA 体験. It was very exciting.</p> <p>S6: I went to the fruits land. I enjoyed shopping. It was so fun.</p> <p>全員: This is our best memory. Thank you.</p>	<p>T 振り返りシートで本時の目標を確認する。</p> <p>T 相手に分かりやすく伝えるための発表になっているか、練習の視点を持って取り組ませる。</p> <p>T・J 各グループの練習を聞いて、アドバイスをする。</p> <p>T・J 発表者と聞き手に分かれて、聞き手のリアクションを児童に示す。また、リアクションの練習も児童と行う。</p> <p>T 発表の終わったグループに対し、聞き手に伝わるように工夫した点を述べさせ、その効果をほめる。</p> <p>T・J 児童からよかったところや面白かったこと等をコメントさせる。発言がない場合は、担任やJTEからコメントをし、よさに気付かせる。</p> 	<p>[視点2] グループ練習において、聞き手にわかりやすく伝えるために工夫をし、協力しながら活動できているか。</p> <p>[視点3] 発表において、相手にわかりやすく伝えるように、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができているか。</p> <p>[視点4] 発表を聞いて、発表内容を理解し、リアクションをしたり、コメントを述べているか。</p> <p>話す</p> <p>6年生の学校生活の思い出について、発表している。また、発表を聞いて感想を言っている。〈行動観察・振り返りシート点検〉</p>
まとめ 7分	<p>5 本時のまとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業の感想を発表する。 <p>6 次時の予告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の My Best Memory を書き、アルバムを完成させる。 	<p>T 本時を振り返り、めあてを達成できたか振り返りシートに記入させる。</p> <p>T 数名の児童に感想を発表させる。</p>	

V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前・事後のアンケート、ふりかえりシートの記述や授業観察をもとに行った。

1 「CAN-DO リスト」(試案)を活用した単元構成と Small Talk の工夫により、児童が主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができたか

(1) 「CAN-DO リスト」(試案)を活用した単元構成の工夫

検証授業において、津嘉山小学校第6学年の「CAN-DO リスト」(試案)を作成し、それをふまえて「6年生の思い出をグループで発表しよう」という発表活動をゴールに設定した。そこから逆算して1時間ごとの目標を定め、活動を配列しながら単元を構成した。また、毎時間、本時のめあてを確認する際には、児童のふりかえりシートで学習目標を確認し、児童がめあてを意識し

で学習に取り組めるようにした。

図2、図3は学習のめあてについて、児童に行ったアンケートの結果である。事前アンケート「英語の授業では、めあてを理解して取り組んでいますか」の設問に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した児童が24名(77%)であった。それに対し、事後アンケート「ふりかえりシートは、めあて(Today's Goal)を理解するのに役に立ちましたか」の設問に、「あてはまる」

「ややあてはまる」と回答した児童が合わせて30名(94%)となり、ふりかえりシートは児童がその日の学習で何ができるようになればよいかを理解することに効果があることがわかった。「My best memory is～」や「I went to～」などの新しい表現を学習した第1時から第4時のふりかえりシートの児童の記述を見ると、「学校行事で行った場所について英語で言えるようになった」、「発音が難しかったけど練習すると出来るようになった」、「今日はどうも言えなかったけど次はがんばりたい」など、その日の学習について肯定的な記述をした児童が平均して90%を超えていた。第3時は肯定的な記述をした児童が86%であったが、この時間は「I saw～」、「I ate～」の二つの表現を導入したため、活動の中でどちらを使うのか迷ったという意見が見られた。それでも、次はできるようになりたいと、自分の感じた課題に、前向きに取り組もうとする児童が多かったことからみても、児童はその日の学習のめあてを理解して意欲的に学習に臨んでいたことがわかる。

また、図4に示すように、「進んで学習に取り組むことができましたか」の設問に、「あてはまる」と回答した児童が検証前の4名(13%)から、検証後は20名(63%)に増加した。図5は児童のふりかえりシートの「進んで学習に取り組むことができる」の自己評価の推移である。毎時間、ほぼすべての児童が「よくできた」、「できた」と回答している。さらに、「よくできた」と回答している児童の割合が単元終末にかけて増加している。第7時の発表活動に対する児童のふりかえりの記述を見ても、「緊張したけど発表ができてとてもうれしかった」、「楽しく発表することがで

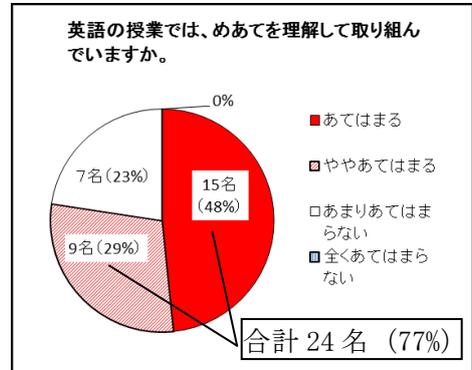


図2 学習のめあてに関するアンケート結果(事前)

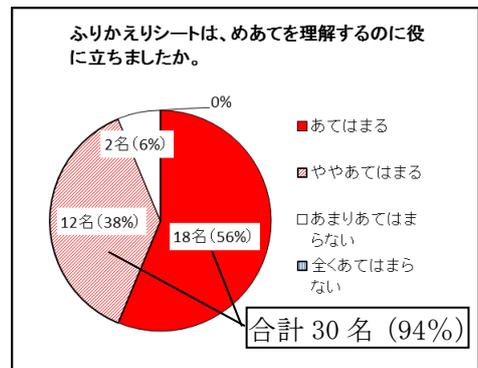


図3 学習のめあてに関するアンケート結果(事後)

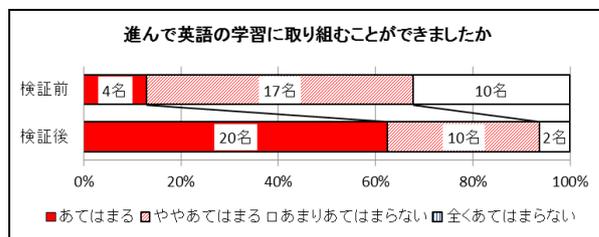


図4 英語学習に対する意欲に関するアンケート結果(事前・事後)

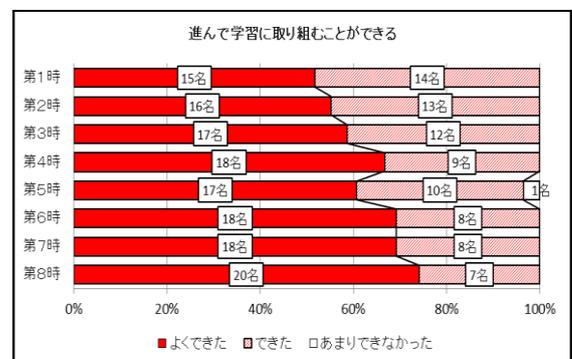


図5 英語学習に対する意欲(毎時間のふりかえりシートより)

きて良かった」、「練習してきたことを発表の時にだせてよかった」、「次はもっとうまく言えるように頑張りたい」など 86%の児童が肯定的に回答した。

以上のことから、「CAN-DO リスト」(試案)を活用した単元構成は児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に効果があったと考える。

(2) Small Talk の工夫

前述の「指導と評価の計画」に示した Small Talk の内容では、前単元までに学習した表現や、対話を続けるための表現も使うことを想定していた。実際の授業では、前時の児童の行動観察やふりかえりシートで学習状況を見とり、次の時間の Small Talk の内容を適宜変更していった。単元計画の段階では、教師のモデルでそれぞれの時間に学習する過去の表現を導入として聞かせ、児童同士の会話では前時の復習を中心に進める予定であった。しかし、実際の授業では教師のモデルにおいても前時で学習した表現を中心に扱い、復習を重視する内容とした。その理由として、児童の様子やふりかえりシートの記述から、went や ate などの過去を表す表現を話すことが難しいと感じたり、「見たもの、食べたものなど言うものが増えていたので、言葉を忘れてしまうことがあったので覚えるようにしたい。」や「食べたものや見たものを言うのは難しかった。」などの負担感が見られたためである。

しかし、Small Talk を毎時間行い、既習の表現を活用していくことで、自分の思い出を積極的に友達と伝え合おうとする姿が見られるようになった。図 6、図 7 は「話したり、聞き取ったりすること」に関するアンケート結果であるが、事前アンケートでは「あてはまらない」、「あまりあてはまらない」と答えた児童は合わせて 16 名 (51%) であった (図 6)。それが、図 7 に示すように、事後アンケートでは「あまりあてはまらない」と答えた児童が 1 名 (3%) に減少した。また、「あてはまる」と答えた児童の割合も増加しており、Small Talk で児童は英語を話すことや聞くことに自信を持つことができるようになったと考えられる。

Small Talk について事後アンケートの児童の回答には資料 2 に示すように、肯定的な内容が多く見られた。Small Talk についての児童の回答を内容別にまとめたのが図 8 である。「毎時間やっていくと自分がすごく英語が言えるようになってうれしかった」、「始めはすらすら言えなかったけど、最後のほうではすらすら言えるようになった」など、達成感を感じている児童が 11 人 (34%)、「何度もやることで覚えることが簡単になる」、などの復習の効果を挙げている児童が 9 人 (27%)、「友達と始めに会話をするので、少し雰囲気よくなると思う」、「友達の My Best Memory を知ることができたり、教えたりするので楽しかった」などのコミュニケーションの楽しさを感じている児童が 9 人 (27%) と、英語で自分の気持ちを伝えることの楽しさを実感していることがうかがえた。一方で、Small Talk の課題として「長いから難しい」、「相手の言ったことをリピートすることができなかった」など、表現の量が増えていくと負担を感じている児童が 7 人 (12%) おり、「発音が難しかった」、「先生たちの会話が早くて追いつけなかった」との回答もあった。表現の量が段階的に増えていく単元半ばでは確かに負担感があったかもしれないが、

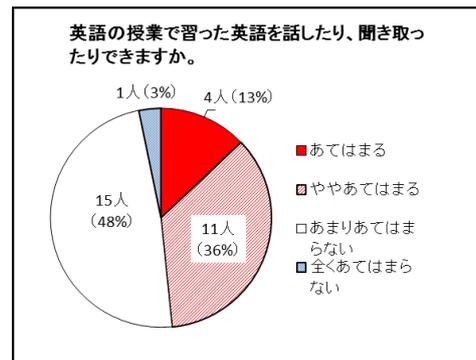


図 6 「話したり、聞き取ったりすること」に関するアンケート (事前)

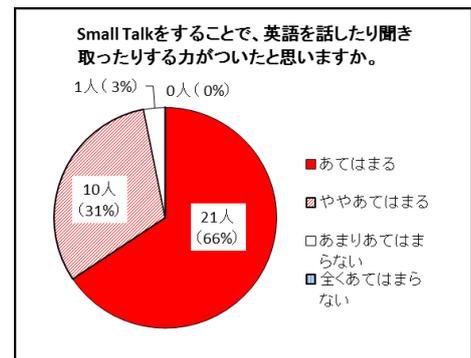


図 7 「話したり、聞き取ったりすること」に関するアンケート (事後)

図7にも見られるように、単元終末では多くの児童がSmall Talkで話したり聞き取ったりできるようになったと実感しているため、Small Talkは児童が英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成の一助となったと考える。

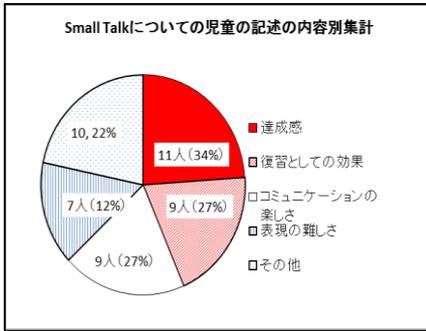


図8 Small Talkについての児童の記述の内容別集計

Small Talkのよかった点や楽しかった点、難しかった点などを教えてください。
 最初にやることで、あとの発表などに、役立った。そのときに、友だちと教えあったり、また、自分も発表に役立ったなど、あったのですし、自信ができました。

Small Talkのよかった点や楽しかった点、難しかった点などを教えてください。
 ・MyBestMemoryの授業では、最初はじめたばかりの時は発音とかか分からなかったけど、先生の発音をきいたり、習ったことを練習していくうちに、しっかりできるようになりました。でも、まだまだうろ覚えなので、さらさら言えるようにしてアメリカ人と話してみたいです。

資料2 Small Talkについての児童の記述

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

- (1) 単元を構成する際、「CAN-DO リスト」(試案)を作成し、単元終末で目指す姿から逆算して単元を計画し、ふり返しシートに反映させたことで、児童が1時間ごとの目標を明確に意識して学習に取り組むことができ、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができた。
- (2) Small Talkを毎時間行い、児童と教師や児童同士でコミュニケーションを図る中で、自分の思いや考えについて相手に伝えようとする主体的な態度を育むことができた。
- (3) ふりかえりシートを活用した形成評価を行い、次時のSmall Talkや活動を工夫したことで、児童の実態に合わせた指導を行い、児童が自信を持って活動に取り組むことができた。

2 今後の課題

- (1) 児童が負担を感じることなく、より楽しく英語でコミュニケーションを図ることのできるような活動の工夫と評価方法の工夫を行う。
- (2) Small Talkで児童がやり取りを行う時間を増やし、単元で学習した表現だけでなく、前学年や前単元で学習した言語材料も活用できるように、年間を見通してSmall Talkの内容を作成していく。
- (3) Small Talkだけでなく、Sounds & Letters、Let's Read and Writeなどの言語活動も取り入れ、読むことや書くことに慣れ親しませる活動を充実させる。
- (4) 「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」、「読むこと」の4技能を効果的に育むための板書やワークシートの工夫を行う。

〈主な参考文献〉

文部科学省	『小学校学習指導要領』	2018年
文部科学省	『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』	2018年
文部科学省	『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』	2018年
文部科学省	『初等教育資料 No.961』	2017年
吉田研作	『小学校英語教科化への対応と実践プラン』 教育開発研究所	2017年
文部科学省中等教育局	『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標設定のための手引き』	2013年